

2019.9.1 年間第 22 主日

末席につくことを恥じるな

ルカ14章1, 7-14節

安息日のことだった。イエスは食事のためにファリサイ派のある議員の家にお入りになったが、人々はイエスの様子をうかがっていた。イエスは、招待を受けた客が上席を選ぶ様子に気づいて、彼らにたとえを話された。「婚宴に招待されたら、上席に着いてはならない。あなたよりも身分の高い人が招かれており、あなたやその人を招いた人が来て、『この方に席を譲ってください』と言うかもしれない。そのとき、あなたは恥をかいて末席に着くことになる。招待を受けたら、むしろ末席に行って座りなさい。そうすると、あなたを招いた人が来て、『さあ、もっと上席に進んでください』と言うだろう。そのときは、同席の人みんなの前で面目を施すことになる。だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。」

また、イエスは招いてくれた人にも言われた。「昼食や夕食の会を催すときには、友人も、兄弟も、親類も、近所の金持ちも呼んではならない。その人たちも、あなたを招いてお返しをするかも知れないからである。宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。そうすれば、その人たちはお返しができないから、あなたは幸いだ。正しい者たちが復活するとき、あなたは報われる。」

説教

宴会は天国のたとえです。

人の子が来て、飲み食いすると、『見ろ、大食漢で大酒飲みだ。徴税人や罪人の仲間だ』と言う。ルカ 7:34

世間はイエスは、大酒飲みで罪びとの仲間と非難しています。しかし、神の目からすれば違います。イエスが出席する宴会は神の国の宴会、天国のたとえです。きょうの福音は安息日に議員さんが開いた宴会にイエスが招待される場面です。

谷はすべて埋められ、／山と丘はみな低くされる。ルカ 3:5

「高いものを低くする」道がたいらになることですが、心の状態を表すたとえでもあります。ふつうは「低さ」は無力さとか、貧しさとか、道徳的な卑しさの象徴とされ、避けられるべき恥ですが、聖書では肯定的に評価されています。イエスは「へりくだって」十字架の死に至るほどに従順となり、神の前に自分を低くされました。

自分を低くして、この子供のようになる人が、天の国でいちばん偉いのだ。マタイ 18:4

自分を低くする人が、天国ではいちばん偉大な人になります。

招待されたから得意になって特等席にちゃっかり座る人は福音書によればダメで残念な人となります。また招く側も偉い人ばかりを招いているのは大いに問題だといえます。

宴会を催すときには、むしろ、貧しい人、体の不自由な人、足の不自由な人、目の見えない人を招きなさい。ルカ 14:13

わたしたちは「へりくだり」を人間関係で柔和であったり、腰の低い態度などの利点としてとらえがちですが、その土台は神に対してへりくだるところにあります。末席につくことを恥じることはありません。

だれでも高ぶる者は低くされ、へりくだる者は高められる。ルカ 14:11

自分の思いよりも、神の思いを先に立て、神の前に自分を低くして、従順に生きることがイエスの薦めであり、わたしたちにとっての良き知らせ = 福音です。
